「文を通ずる～「文通」」

「文を通ずる～「文通」」をテーマとして、文章や手紙がどれほど人に影響を与えるのかを考えました。手紙の中には「人の筆づかい、温もり、手間、熱意、たくさんの愛情」が詰まっています。学校への訪問やソーシャルトライアル（職場体験）に手紙を送ったり、ipad を使ってメッセージを送って感動を届けています。

その一例ですが、みなさんにご紹介したいと思います。

高校１年生の大里君は、地元の中学校へ入学式に行ったきり登校できませんでした。
中学校のときには通級教室のある菊陵中学校に通っていました。なかなか通学が安定しない状況だったので心配した通級教室の先生は、大里君の家に何度も家庭訪問をしてコミュニケーションをとったそうです。大里君は通級教室の中村先生を恩師だと思っています。
そこで７月、通学が安定してきたころ、恩師に向けて動画をとりました。

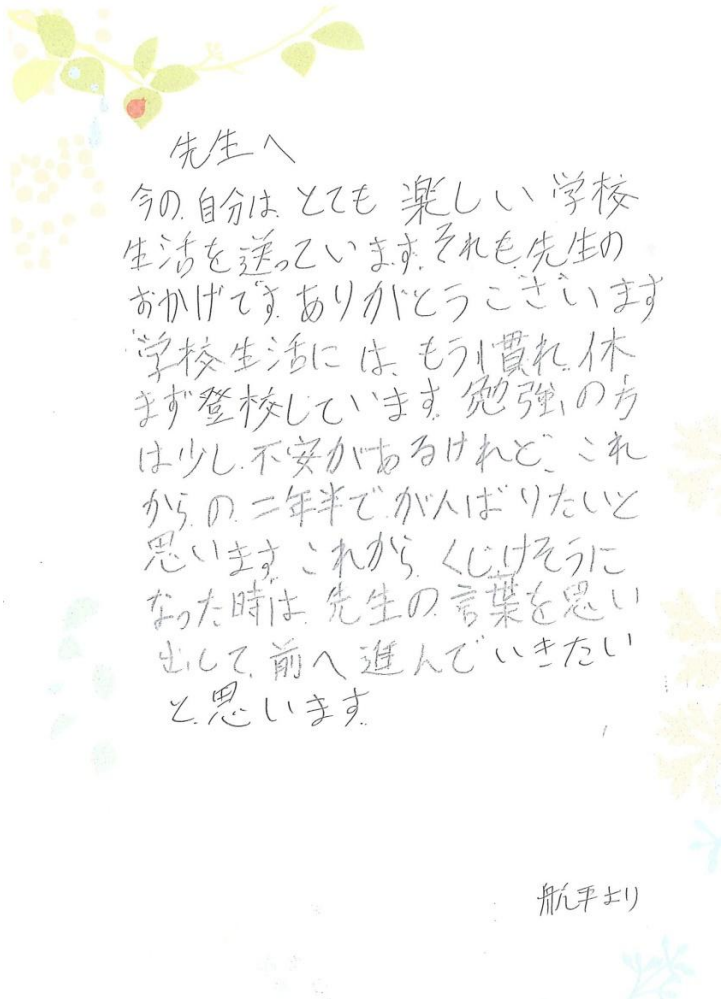
先生へのメッセージと先生からのメッセージです。感動です。

「先生、無事進学することができました。通級のとき毎回家に来てくださって、本当にありがとうございます。学校も楽しく通っています。勉強の方は厳しいけれど頑張っています。いつか先生に会いにいきますので、そのときはよろしくお願いします。」

という大里君のメッセージを先生に届けました。先生は ipad の前で手を振ってくれるほど喜んでいました。
今度は先生にメッセージをいただきました。

「お久しぶり大里君、今日あなたの学校の先生が来てくださって、あなたの画像を見せてくれました。とっても嬉しかったです。なぜかというと君の表情がとってもいい。本来のあなたと初めて出会ったような気がします。いい学校、いい先生、いい友達との出会いがあったんだなぁということがそれを見てよく分かりました。また、いつか会いに来てくれるというあなたのことばをとてもうれしく聞きました。是非会いに来てください。そのときを楽しみに待っています。これからの学校生活もがんばって。」

そして９月恩師の先生のもとへ大里君と恩師中村先生に会いに行きました。
写真をたくさん持っていき自分自身の近況報告や楽しかったこと、成長したことを自分の声で先生に一つずつ伝えていました。最後に大里君から先生に宛てた手紙を紹介したいと思います。そのときの写真と手紙です。



先生へ
今の自分はとても楽しい学校生活を送っています。それも先生のおかげです。ありがとうございます。学校生活には、もう慣れ、休まず登校しています。勉強の方は少し不安があるけれど、これからの二年半で、がんばりたいと思います。これから、くじけそうになった時は、先生の言葉を思い出して、前へ進んでいきたいと思います。

航平より

本人の元気な姿、そして手紙をもらった先生は本当にうれしそうにしていました。本人は頑張っていることを実感できたと思いますし、自己肯定感が育まれたと思います。

また、みなさんにたくさんの感動をお伝えできるようにしたいと思っております。

第一学院高等学校　小倉キャンパス
小幡　崇史